

Title	本研究会の活動（1991年10月～1992年3月）
Author(s)	
Citation	詞林. 1992, 11, p. 60-60
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/67319
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

本研究会の活動（一九九一年十月～一九九二年三月）

第四十二回研究発表会（十月二十六日）

室町時代物語『さごろも』について 長尾佐知子

第四十三回研究発表会（十二月六日）

菊草本『文机談』の成立 中原 香苗

第四十四回研究発表会（十二月十三日）

『西行物語』伝本における諸問題

—采女本を中心として— 山崎 淳

第四十五回研究発表会（一月二十五日）

『徒然草御伽雜話』について 赤松 智子

玉鬘十帖における紫上 胡 秀敏

第四十六回研究発表会（二月二十二日）

物語的私家集の成立基盤

—『本院侍従集』の場合— 堤 和博

『竹林抄』古注釈書に見える漢籍由来の付合について

—『禅林類聚』及び『禅林句集』との関連を中心に— 中本 大

第四十七回研究発表会（三月二十日）

略本『西行物語』の本文改変とその方法 近本 謙介

紹介 管宗次著『京大坂の文人 幕末・明治』

管宗次氏の『京大坂の文人』が刊行された。管氏は尾崎雅嘉の研究者として知られ、近世上方の和学には特に造詣が深い。本書は、そうした氏の学殖の深さが生み出した好著といえる。内容は、「幕末明治京都の文人（13項目）」・「幕末神戸の女流歌人・中西為子」・「幕末明治大坂の文人とその周辺」（8項目）の三部よりなる。はじめの「幕末明治京都の文人」は、近世京都で出版された紳士録『平女人物誌』等に名が見える風流文雅の人士の事蹟・詠歌を紹介したものである。与謝野鉄幹の父と交流のあった團美蔭や赤報隊の一人として斬られた川喜多真彦など多士濟々で興味深く、また富士谷成章門流の何人かをとりあげている点は、国語学史にも寄与するところ大である。続く「幕末神戸の女流歌人・中西為子」は、かつて本誌第六号に執筆された論文の加筆・再録であり、為子とともに黒沢翁満（黒沢翁満）についても詳しい言及がある。最後の「幕末明治大坂の文人とその周辺」は、いわば管氏の書誌学的研究の余瀝といったところだが、「近世文学にみる種痘と除痘館」など文化史的にも興味深い記事が並んでいる。文章は平明、広く江湖に推薦したい。

（一九九一年七月刊、和泉書院、B6版二〇二頁、

二五七五円）

（藤田保幸）